

## 第3学年「釧路湿原のここが素晴らしい！」

### 単元の概要

#### (1) 単元の概要

平成19年度の前期学校プラン「鶴居自慢」というテーマに関して、鶴居村の自慢できるところを事前に児童に聞いたところ、「みなくる」「らくらく館」などの施設を挙げた子やタンチョウ、釧路湿原などを挙げた子が多くいた。本単元のテーマである釧路湿原に関しては、「湿原に行くと、夏にホタルがたくさん見られる」「釧路湿原には、いろいろな動物がいる」などの意見が出ており、釧路湿原の動植物に関心を持っている子が何人かおり、また、豊かな自然や動植物が鶴居で自慢できるところだと考えている子も多い。

本単元では、様々な動植物に実際にふれることができる「釧路湿原」をテーマに学習していく。ふるさと情報館「みなくる」での学習や釧路湿原での体験学習を通して、湿原に対する興味関心を促し、各自が設定した課題に対して図鑑や文献、インターネット、湿原探検の中から追究活動を行い、発表会を行う。これらの学習で気づいたことを生かして、釧路湿原（自然）との向き合い方についての意見交換を行う。

#### (2) 環境教育としての視点

総合的な学習の時間を通して、地域の人・自然・ものに興味や関心を持って関わり、ふれあいを深め、自分にとって意味ある課題を見つけ、自分らしく追究する力を育てるとともに、実践を通して自分の生き方や考え方を確かにし、地域や社会に生かす力を養いたい。そのためには、子ども自らが豊かな学びの対象（人・もの・こと）と関わることが大切である。初めて総合的な学習の時間に取り組む3年生の子ども達なので“ふれる”ことを重視し、様々な動植物に実際にふれることができる「釧路湿原」をテーマに学習していく。四季を通じて釧路湿原を探検し、自分の目や耳、体全体で湿原を感じることで、今まで知らなかった湿原の素晴らしさを知ってってもらいたい。また、湿原に関係する人たちなどと触れ合うことにより体験的で実感の伴った活動を展開するとともに、湿原の大切さや問題点などにも触れ、地域の自然の素晴らしさについても考えさせたい。

<環境をとらえる視点>

#### (3) 教科等の関連

### 単元のねらい

#### (1) 単元目標

釧路湿原という地域の自然を活用し、湿原に興味や関心を持ってかかわり、ふれあいを深め、自分にとって意味ある課題を見つけて自分らしく追究する力を育てるとともに、地域の自然に親しみ、自然の大切さに気づくことができるようにする。

#### (2) 評価の観点

評価の観点	趣旨
問題発見力	木道探検、ザリガニ釣り体験、貝の化石掘り体験など、実際に釧路湿原にふれる自然体験から、釧路湿原の動植物に興味・関心を持ち、課題を見つける。
情報を主体的に判断する力	実際に見たり、図鑑、インターネットなどを活用して調べたり、温根内ビジターセンターの方などに聞いたりしながら、情報を集め、目的に応じて活用する。
的確に表現する力	釧路湿原にふれ調べる活動を通して、釧路湿原の素晴らしさや問題点などについて考え、聞き手を意識しながら、自分の言葉でしっかりと表現する。

## 指導計画

時間	学習活動 ・ 主な内容	教師の指導・支援 主な評価
1 ・ 2	オリエンテーション 鶴居で自慢できるところについて考える。 ・建物、人、動物、植物、場所など、様々な視点から考える。 ・意見をグルーピングしまとめていく。	子ども達の考えを交流し、子ども達の見方を広げる。 見方を広げた後、似ているものをたばねていき、自然や動物、植物に目を向けさせていく。
3 } 6	対象との出会い <b>釧路湿原ってどんなところ？何があるの？</b> 「みなくる」(鶴居村ふるさと情報館)での事前学習を行う。 ・釧路湿原のビデオ視聴、展示室の見学	実際に釧路湿原に行く前に、湿原への興味・関心を高めたり、実際に行ってみたいという気持ちを高める。 ワークシートに「わかったこと」「疑問点」「興味を持ったこと」「調べてみたいこと」等を整理させる。
7 } 1 3	対象との出会い ・ ふれあい <b>実際に釧路湿原に行ってみよう！</b> 温根内ビジターセンターを訪問(6月中旬) ・ザリガニ釣り体験、センタースタッフの支援の元で木道散策(1時間半)	初発の思いと照らし合わせながら探検の計画を立てさせる。 釧路湿原に思う存分「ふれる」体験を通して、課題意識を持たせていく。 デジカメ、ビデオ、絵や文で探検の記録を残させる。
1 4 ・ 1 5	<b>課題を立てよう</b> 第1回湿原探検を終えて、児童が調べたい課題を決める。 ・体験を振り返りながら、学習課題を立てていく。	課題の見つけ方を指導する。 釧路湿原の素晴らしいところという視点で、課題を立てさせていく。 必要に応じてグルーピングを行う。
1 6 } 2 5	連続的追究活動 <b>課題に沿って、調べ、まとめていこう！</b> 各自が設定した課題について調べる。 ・図鑑、文献、インターネットを活用する。 ・温根内ビジターセンター、釧路博物館などに電話やFAXで問い合わせる。	調査の方法、資料のまとめ方などを紹介し、指導する。 見る側、聞く側に立った見やすい資料の作り方を紹介し指導する。 文献、インターネットで調べる以外の調べる方法を紹介する。 調査活動への見通しを持たせる。

### 夏休み自由研究等

夏休み中にも、湿原にふれる機会を持ってもらえるよう家庭に啓発するとともに、自由テーマで自由研究に取り組みさせた。釧路湿原に関することをテーマに選んだ子もいた。

児童が取り組んだテーマ：キタサンショウウオについて、釧路湿原のミンクについて、釧路湿原のホタルについて、釧路湿原の鳥と動物、釧路湿原は昔海だった時何がいたのか 等

時間	学習活動 ・ 主な内容	教師の指導・支援 主な評価
2 6 3 1	<p>対象とのふれあい</p> <p><b>もう一度釧路湿原を探検してみよう!</b></p> <p>温根内ビジターセンターを訪問(7月中旬)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>貝の化石掘り体験、センタースタッフの支援の元で木道散策(2時間)、センター内の展示物見学</li> <li>各児童の追究課題についてスタッフに質問したり資料を収集する。</li> </ul>	<p>湿原の様子が6月とどれくらい変わってきているのかを意識させる。</p> <p>課題に沿って、探検する場所をある程度絞らせる。</p> <p>ビジターセンターのレンジャーに聞いて、調べる活動も行わせる。</p> <p>オープンスクールデイ(OSD)での発表を意識させた探検を行わせ、発表に使える素材をデジカメ、ビデオ等で記録させる。</p>
3 2 4 3	<p>連続的追及活動</p> <p>OSDでの発表を意識した追究活動を進め、発表準備を行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>分かりやすく伝える発表の準備、リハーサル、発表方法(内容)の再考</li> </ul>	<p>OSDでの発表を意識させ追究活動を行わせる。</p> <p>実物模型や楽しんでもらうための工夫、写真の活用など、分かり易く伝える方法について考えさせる。</p> <p>発表のリハーサルを通して、発表の問題点、足りない点に気づかせ、発表をよりよくできるようにさせる。</p>
4 4 4 5	<p>双方向の交流</p> <p>OSDにおいて、グループごとに発表する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>釧路湿原の素晴らしさや問題点などについて考え、聞き手を意識しながら、自分の言葉でしっかりと発表する。</li> </ul>	<p>発表について、児童同士の相互評価を促す。</p> <p>担任による評価を伝えるようにする。</p>
4 6 4 7	<p>追究活動を振り返って</p> <p>学習の感想を書き、発表して互いに意見を交流する</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>この学習で気づいたことを生かし、釧路湿原(自然)との向き合い方に関して、簡単に意見交流する。</li> </ul>	<p>釧路湿原に対する個々の思いを知り、児童の変化を捉える。</p> <p>湿原の大切さや問題点などにもふれ、地域の自然の素晴らしさについても考えさせていきたい。</p>
4 8 5 3	<p>対象とのふれあい</p> <p><b>歩くスキーをはいて湿原探検をしよう</b></p> <p>温根内ビジターセンターを訪問(6時間)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li></li> </ul>	<p>湿原の様子が、春(6月)、夏(7月)とどのくらい変わってきているかを意識させる。</p> <p>四季を通じて釧路湿原を探検し、自分の目や耳、体全体で湿原を感じることで、今まで知らなかった湿原の素晴らしさに気付かせる。</p>
5 4 5 5	<p>湿原学習を振り返って</p> <p>1年間の湿原学習を振り返る</p> <ul style="list-style-type: none"> <li></li> </ul>	<p>1年間の湿原学習を振り返らせ、よかったこと、学んだこと、自分の成長などに気付かせる。</p>

## 学習活動の実際

### オリエンテーション 鶴居で自慢できるところについて考える

#### 本時の目標

#### 本時の展開（2時間）

主な学習活動 ・ 予想される子どもの反応	教師の指導・支援 評価の視点（方法）
鶴居（市街、村全体）で自慢できるところを問いかける。 ・ 似ている意見をグルーピングしていく ・ 話し合いを進め単元テーマに落としていく ・	子ども達の考えを発表交流させ、子ども達の見方を広げていく。    自然や動物、植物に目を向けさせていく

#### 鶴居（市街、村全体）で自慢できるところを問いかける

##### クラスで出てきた意見

建物 みなくる、らくらく館、鶴居保育園、鶴居中学校、動物 エゾシカ、ウグイス、キタサンショウウオ、フクロウ、タンチョウ、シジュウカラ、イトウ、キタキツネ、牛、馬、クワガタ、ミズカマキリ、植物 シラカバ、コスモス、こくわの木、場所 村民の森の展望台、鶴居運動広場、芝生のサッカー場、鶴見台、どさんこ牧場、キラコタン岬（どんぐりの木）、TAITO の温泉、宮島岬、西公園、クワガタのたくさんいる森、グリーンパーク、イトウタンチョウサンクチュアリ、釧路湿原、国立公園、くんの家（羊を飼っている）、さんの家（民宿をしている）、さんの家（自給自足の生活をしている）

##### 児童からの意見（A）

「釧路湿原」理由 釧路湿原には、キラコタン岬と宮島岬があるから。釧路湿原は、きれいな湿原だから  
「動物」理由 鶴居村には、タンチョウやエゾシカやキタキツネなど、いろいろな動物がいっぱいいる。最初の段階から、本単元のテーマである「釧路湿原」に興味を持っている様子がわかる。全体での発表の際にも、釧路湿原が鶴居の自慢だということを発表してくれた。釧路湿原の中でも動物に興味を持っている。

##### 児童からの意見（B）

「らくらく館」理由：おいしいパンやアイスを誰でも作って食べられるから。  
「ファミリースポーツセンター」理由：誰でも空いている時にテニスや卓球が出来るから。  
「サッカー場」理由：大人や子どもが芝生で大会や試合をしているから。  
「鶴居運動広場」理由：いろいろな人が、いろいろな乗り物に乗ったりしているから。  
本単元のテーマである「釧路湿原」に最初から興味を持っていたわけではないが、鶴居で自慢できるところはどこですか？を全体で発表し合った時、積極的に自分の意見を発表していた。

#### 話し合いを進め、意見をまとめて単元テーマに落としていく

子ども達と話し合っていくと「豊かな自然や動植物こそ、鶴居の自慢だ！」ということにまとまった。そこで豊かな自然や動植物が見られるところってどこかをみんなで考えた。様々な意見が出てきたが、最終的には「釧路湿原」ということにまとまった。

## 対象との出会い 釧路湿原ってどんなところ？何があるの？

### 本時の目標

--

### 本時の展開（4時間）

主な学習活動 ・ 予想される子どもの反応	教師の指導・支援 評価の視点（方法）
展示室にを自由に見学 ・  展示室を自由に閲覧 ・	

### 「みなくるに行って、ビデオ視聴、展示室の見学

#### クラスの動き

子ども達が興味を持っていたのは、「やちまなこ」や鶴居村のシンボル「タンチョウ」、新聞記事のかわいい顔が印象的だった「キタサンショウウオ」。「やちぼうず」や湿原に咲く花など、植物に目を向けている子や、湿原にいる鳥や魚などに興味を持った子もいた。

子ども達の釧路湿原に対する興味・関心が一気に広がった学習となった。

#### 児童の様子（A）

展示物をさっと全部見た後は、釧路湿原のことがいろいろと分かる映像版「釧路湿原大百科」の所で1時間いっぱいずっといろいろな映像を見ていた。選んでいる映像は、興味を持っている動物のことだった。特に鳥についての映像をよく見ていた。

教師からの所見：動物の中でも鳥について興味を持ったようである。

#### 児童の様子（B）

展示室では、「やちまなこ」、「やちぼうず」、「タンチョウ」、「イタチ」に興味を持って、色々なことをメモしてきた。

教師からの所見：釧路湿原の動植物全般の雰囲気を通して知ることが出来たようである。

### 事前下見、交通・安全管理など

# 対象との出会い、ふれあい 湿原探検 1 回目 実際に釧路湿原へ行ってみよう!

## 本時の目標

## 本時の展開 (7 時間)

主な学習活動 ・ 予想される子どもの反応	教師の指導・支援 評価の視点 (方法)
ザリガニ釣り体験 .  湿原散策 (1 時間程度) センタースタッフの支援のもと、湿原ものさがしビンゴを解きながらの湿原散策。 .	

## フィールドで「ふれる」体験からの学習

### クラスの動き

釧路湿原に思う存分「ふれる」体験を通して、課題意識を持たせていくための第 1 回湿原探検 (散策)。ザリガニ釣り体験は、30 分ほどしか時間が無く、落ち着いて釣りという状況ではなかった。ザリガニ釣り体験後、温根内ビジターセンターへ移動し、センター職員の若山さんから色々なことを教えていただきながら、湿原を散策した。湿原もの探しビンゴを解きながら 1 時間ほど湿原を歩き、途中、タヌキモという食虫植物を顕微鏡で見たり、湿原に咲いているカキツバタやミツガシワ、ワタスゲ、エンコウソウ、ヒメカイウなどのお花の説明をしていただいた。

子ども達は、持ってきたカメラで写真を撮ったり、若山さんの説明を聞いて、湿原にたくさん触れてきて、それぞれに興味を持ったものが見つかった様子であった。

### 湿原探検を終えての児童の感想

- ・発見したものは、ヒメカイウとタヌキモ、ミツガシワ、カキツバタです。興味を持ったものは、ヒメカイウは木道の横にヒメカイウがあって、私はミズバショウなのかが分からなかったもので、若山さんに聞いてみたら、「これはヒメカイウだよ」と教えてくれたので分かりました。
- ・ぼくが分かったことは、初めて湿原に行った時は、ホテルを見に行ってきたから夜だったけど、今日は昼に行ったので景色がぜんぜんちがいました。興味を持ったものは、やちまなこです。ぼくは、やちまなこを見たことがないので、人間くらいの深さだと思っていたら、3 ~ 4 m もあるということに興味を持ちました。

## 事前下見、ビジターセンターとの打ち合わせ・交通・安全管理など

フィールド学習にあたっての受け入れ施設との打ち合わせ等

保護者の協力を得る：

移動・安全管理など

## 対象とのふれあい 湿原探検 2 回目 もう一度釧路湿原を探検してみよう！

### 本時の目標

### 本時の展開（6 時間）

主な学習活動 ・ 予想される子どもの反応	教師の指導・支援 評価の視点（方法）

### フィールドで「ふれる」体験からの学習

#### クラスの動き

前回のフィールド学習同様、温根内ビジターセンターに行ってきた。雨が降ったりやんだり、しかも最高気温 11 という 7 月とは思えないほどの寒さで、あいにくの天気だったが、湿原を体全体で感じてきた。

最初に、前回時間がなくて出来なかった貝の化石掘り体験をした。子ども達は、牡蠣の貝の破片をかなり見つけていた。釧路湿原が昔、海の中にあったことが分かったようである。貝の化石掘り体験の後は、ビジターセンターの若山さんと一緒に木道散策に行った。前回、1 時間しか時間がとれなかったため、今回は 2 時間かけ、ゆっくり湿原を案内してもらった。

お弁当を食べた後は、ビジターセンターの中の展示物を見たり、自分の調べている課題について若山さんに質問する時間をとった。子ども達は、自分の調べている課題について積極的に質問して教えてもらっていた。また、調べている課題についての資料もいただいていた。いただいていた資料は、調べ活動に役立った。

#### 湿原探検を終えての児童の感想

- ・木道散策の時に、ハンノキ林がありました。そこにヒメカイウがいっぱいありました。6 月にくらべて、ヒメカイウがふえていました。

教師からの所見：本人が興味のある鳥が見られなくて残念そうにしていたが、一学期の総合を振り返っての中に、夏は鳥や動物がなかなか見つけれられないことがわかった、という内容のことを書いていた。ビジターセンターの展示物や本をじっくり見ていた姿が印象的だった。

- ・木道を歩いていた草がすごくのびていてびっくりしました。化石ほりでは、スコップを使わないで歩いていてもあることが分かりました。奥の高層湿原に行ってモウセンゴケを見られると思ったら、そこまで行かないでもどってきたので、見られませんでした。質問で聞くことはできなかったけど、タヌキモの本をもらえてうれしかったです。

教師からの所見：調べ活動の延長戦上として、良い湿原探検になった。タヌキモは今回も顕微鏡を使って観察できた。もう一つの食虫植物であるモウセンゴケを直接見られなくて残念そうにしていた。

### 事前下見、ビジターセンターとの打ち合わせ・交通・安全管理など

フィールド学習にあたっての受け入れ施設との打ち合わせ等

保護者の協力を得る：

移動・安全管理など

## 本学習における成果・子どもの変容

### 本事例活用にあたっての補足情報

- ・本事例の担当教師からのコメント

- ・環境教育ワーキンググループ事務局より補足情報